

漢字百話 鳥の部

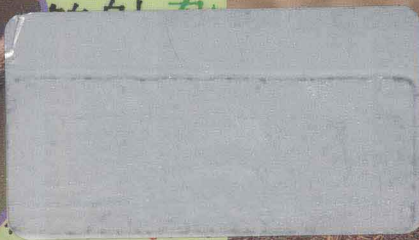
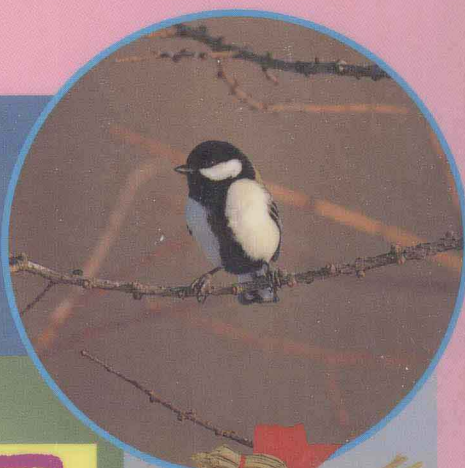
鳥・とり 事典

ファールブルの「野鳥記」／個性
的な鳥／海の中から鳥を見る
／鳥たちの未知の生態／鳥な
んでも事典／鳥と俳句／漢詩
と鳥／鳥文字のなりたち／鳥
の故事成語・格言／鳥用語辞典

監修 日本野鳥の会



鸕 鳩 鸕
鵲 鳩 鳩
鵲 鳩 鳩
鵲 鳩 鳩



鵲 鸕 鳩 鳩 鳩 鳩
鵲 鳩 鳩 鳩 鳩 鳩
鵲 鳩 鳩 鳩 鳩 鳩
鵲 鳩 鳩 鳩 鳩 鳩

『広漢和辞典』 大修館書店 一九八一〜八二
 『漢語林』 大修館書店 一九八七
 『イミダス』 集英社 一九八九
 『現代用語の基礎知識』 自由国民社 一九八九

●日本野鳥の会刊行書籍

- 『野外観察ハンドブック 山野の鳥』 五〇〇円
- 『野外観察ハンドブック 水辺の鳥』 五〇〇円
- 『野鳥識別ハンドブック』 一九〇〇円
- 『バードウォッチングガイド 日本の探鳥地』
- 『北海道・東北編』 一二〇〇円
- 『関東・中部編』 一四〇〇円
- 『近畿以西編』 一四〇〇円
- 『ぼくは野鳥のレンジャーだ』 一二〇〇円
- 『セーブザバード』（企画協力日本野鳥の会）
 平凡社 八八〇〇円

漢字百話 〈鳥の部〉
 鳥・とり事典

定価 一八六〇円（本体一八〇六円・税五四円）

一九八九年七月一五日

初版発行

監修者

財団法人 日本野鳥の会

発行者

鈴木 荘夫

発行所

株式会社 大修館書店

東京都千代田区神田錦町三二二四
 電話 東京（二九四）二三二一（大代表）
 振替 東京九一四〇五〇四
 郵便番号 一〇一

編集・制作

株式会社 第二アートセンター
 東京都千代田区神田神保町一七
 電話 東京（二九五）五九九一（代表）
 郵便番号 一〇一

印刷・製本

図書印刷株式会社

漢字百話

鳥の部

鳥

江苏工业学院图书馆
藏书章

事典

カラー口絵

鳥名鳥字 1画～8画 10

●エッセイ

ナベヅルの故郷を訪ねて 柚木修 10

海の中から鳥を見る 長井弘勝 18

探鳥とバードウォッチング 小川巖 22

カラー特集

鳥の顔 16

漢字コーナー

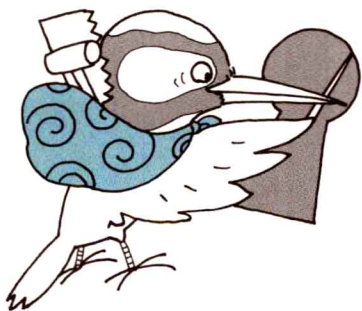
鳥文字のなりたち 望月真澄 25

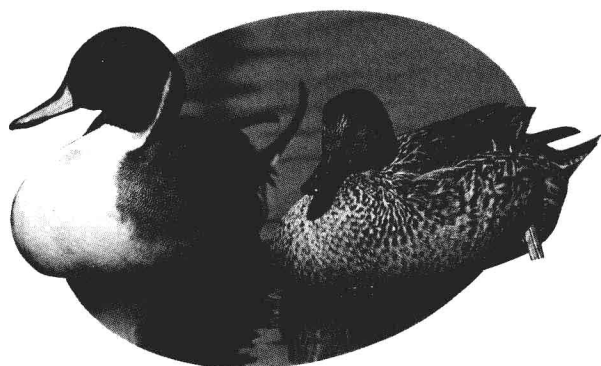
辞書の中の鳥文字 坂田新 28

漢詩と鳥 横山伊勢雄 30

博識コーナー

鳥なんでも事典 柚木修 34





ワシとタカはどう違う?／三度笠の粋な漁師、ワタリガラス(34)
 釣りをする鳥、アメリカササゴイ／ツバメの巣は食べられない(35)
 ガンに似てない雁擬／空から物を落として割る鳥／道具を使う鳥、エジプトハゲワシ(36)
 サボテンの刺で虫をとる鳥／丹沢のUFO騒動、トラッグミ／怪鳥にされた鶴の正体(37)
 飛行機の先輩の鳥たち／高度な飛行技術をもつアホウドリ／一生を飛び続けた脚のない鳥(38)
 江戸時代、日本にきた珍鳥／ニュージーランド、キーウィどちらが先／
 蘇った飛べない鳥、タカヘ(39)

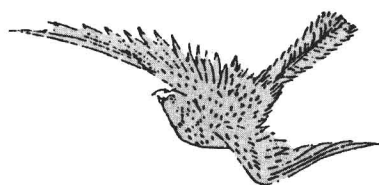
天涯孤独なカグー／夫婦は一心同体／鳴き真似コンテストのチャンピオン(40)
 英独化石戦争／ヒバリは日本語で鳴く?／天気予報をするイカル(41)
 バイ・リンガルの鳥たち／山火事で生き延びる(42)
 無菌室の鳥、ライチョウ／闇の帝王、フクロウの秘密／ヤンバルクイナ発見記(43)
 温泉卵が孵化した／庭を作って雌を呼ぶ(44)
 蟻を浴びる鳥／手抜き子育てのチャンピオン／哺乳鳥がいた(45)

平和の象徴はハト／鵜飼いあれこれ(46)
 千鳥足、千鳥掛／鳴かない鳥／カラスの雲だめ(47)
 鳥名考・大きさ／鳥名考・形／鳥名考・色(48)
 「青」はアオでも／鳥名考・鳴き声(49)
 鳥名考・行動／ヤマガラのお神籤引き／韓国語の和名がある(50)
 カッパの渡り／人気ナンバー・ワンはカラス(51)

鳥ナンバー・ワン特集

柚木 修

52





世界最大の鳥／日本最大の鳥／世界最少の鳥／日本最少の鳥／最長の翼(52)
 最も翼が退化した鳥／最大の嘴をもつ鳥／最も早く飛ぶ鳥／最も早く走る鳥／速く泳ぐ鳥(53)
 最も深く潜水する鳥／最も高く飛んだ鳥／最も遠くまで飛ぶ鳥／
 日本から最も遠くに渡った鳥／日本で最も普通の鳥(54)
 日本で最も数の少ない鳥／世界で最も数の多い鳥／世界で最も数の少ない鳥／
 鳥の個性的な食べ物ナンバー・ワン(55)
 果作りナンバー・ワン／最大の卵／最小の卵／最も綺麗な卵／最も役に立つ糞を吐く鳥(56)

漢字コーナー

鳥字博覧——坂田新——57

鳥文字の苗字と家紋——丹羽基二——61

鳥嘘文字考——岩井潤平・寄席文字 橘右近——66

鳥隠語録——岩井潤平——70

教養コーナー

フアーブルの「野鳥記」——奥本大二郎——74

個性的な鳥——城田安幸——78

鳥たちの未知の生態——上田恵介——82

無賃乗船の鳥——中村一恵——86

カラー口絵

鳥名鳥字9画～25画——90





●エッセイ

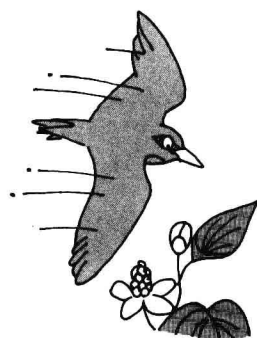
バードウォッチング就職情報 松田道生 90

鳥たちと絵 堀越保二 98

古歌の中の鳥たち 高野昭 102

カラー特集

鳥の色 96



博字コーナー

古代人と鳥 中西進 106

滅びゆく鳥たちへの鎮魂歌 柚木修 109

野鳥の生態からみた中国の成句 志村英雄 113

トキの千年 安田健 117

●コラム

野鳥の眼の色 志村英雄 108

ヤンバルクイナとノグチゲラ 池長裕史 112

銀座の野鳥物語 金子凱彦 116

楽しく鳥の学名を覚えよう 柚木修 120

漢字コーナー

鳥の故事成語 河田聡美 121



鳥のこころわぐ・格言——竹谷 永——131

●コラム

バードウォッチャーは何人?——松田道生——136

博識コーナー

俳句と鳥——淡野史良——138

落語と鳥——鈴木剛——142

明烏／雁とり(142)

小烏丸／くる(143)

雁風呂(144)

抜け雀／三枚起請(145)

伝説・神話・迷信・俗信と鳥——武田静澄——146

驚にさらわれた児／鴛鴦沼(146)

長柄の人柱／雀観音(147)

金の鶏／八咫鳥／鶴女房(148)

葦切り／雉の予兆／鳶が舞こつ雨(149)

空想・イメージの中の鳥——坂田新——150

鳥用語辞典——加藤実秋——154

参考図書——157



●監修者
日本野鳥の会

●執筆者

中西進 (国際日本文化研究センター教授)
堀越保二 (東京芸術大学助教授)
奥本大三郎 (昆虫研究家)
城田安幸 (弘前大学講師)
上田恵介 (立教大学助教授)
高野昭 (日本文芸家協会)
小川巖 (野生生物情報センター代表)
中村一恵 (神奈川県立博物館学芸員)
安田健 (日本農学会)
長井弘勝 (野鳥研究家)
竹谷永 (野鳥研究家)
池長裕史 (農林水産省)
金子凱彦 (野鳥研究家)
松田道生 (日本野鳥の会)
柚木修 (ナチュラリスト)
志村英雄 (野鳥研究家)
望月真澄 (金沢大学教授)
横山伊勢雄 (新潟大学教授)
坂田新 (愛知県立大学助教授)
河田聡美 (明治大学非常勤講師)
丹羽基二 (姓氏・紋章研究家)
武田静澄 (伝説・民話研究家)
淡野史良 (作家)
岩井潤平 (フリー・ライター)
鈴木剛 (フリー・ライター)
加藤実秋 (フリー・ライター)

(順序不同・敬称略)

●カラー写真

志村英雄

●寄席文字
橘 右近

●装幀・デザイン
来夢来人

●レイアウト
来夢来人

村井松雄

●イラスト
MS企画

●編集協力

柚木修
志村英雄
小川益男
佐々木宣子
安田就美
桜木茂寿
工藤洋
香村正光
田島洋
柏木輝子
山本雅美
明星プロセス
五常写植印刷
富士工芸

(順序不同・敬称略)

※カラー・ページの漢字は、『大漢和辞典』に収録されているすべての鳥偏(894字)の文字です。
ここにあげた漢字の画数は、鳥偏(11画)を除く旁(つくり)の部分の筆画を示します。

1画～8画

嚴

[illegible]



とり=チヨウ

一画

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

二画

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥



シジュウカラ (シジュウカラ科) 全長 14.5 cm



ヒヨドリ (ヒヨドリ科) 全長=27.5 cm

春の野山の鳥

鳥

キユウ
ふなしうずら

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

三画

鳥 鳥 鳥 鳥 鳥

ナベツルの
故郷を訪ねてナチュラリスト
柚木 修

毎年、一〇月半ばになると、鹿児島県出水市郊外に、ナベツルの群れが次から次へとやってくる。そして、冬にはその数も七千羽を越え、マナヅルなどを加えて、さらに大きな集団になるのである。

そこは「鹿児島県のツル及びその渡来地」として、国の特別天然記念物に指定されて、手厚く守られている。

さて、ナベツルは何処から、何処を通ってやってくるのだろうか。私は渡り鳥を見ると、いつもこう思う。「渡り鳥の故郷に行ってみよう」と。

雲降る中、ナベツルがやってきた

一九八七年三月八日、韓国の南東部、釜山市の外れにある洛東江の河口で、日本から渡って来るナベツルをじっと待ち受けていた。横なぐりに雲の降る、寒い一日だった。

当日の朝、出水市のツル渡来地は渡り日和だと、そこで観察している友人に国際電話で聞いていたので、寒さは体の中から沸き起こる興奮と、韓国焼酎によって吹き飛んでいた。

そして午後六時二三分。二〇〇羽ほどのツルの群れが、クルルルルルルと



ミヤマガラス(カラス科) 全長 47 cm



スズメ(ハタオリドリ科) 全長=14.5 cm

鳴 鳴 鶯 鳩 鳩

ふ シ キ ト
ふ 鳥 す 鳥 ほ
ぶ の ず カ と
ど の め シ ん ぎ
り の め ャ す

鳴 鳳 鵲 鳩 鳳

な メ ほ ほ コ ふ
く メ ウ の ウ が シ
お ほう 鳥 ホ ふ
う お う の シ ト
る

鳩 鶯 鳩

鳥 ヨ エ 鳥
の ク と の
名 ビ の
名

鳥

キョウ
ふくろう

カワラヒワ
(アトリ科)
全長=14.5 cm



鳩 鳩 鳩 鳩 鳩

は キ クン ガン コッ コッ
と キ の カ り い い
ユ の 名 り かる
ウ の 名 が が

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

よく通る声で鳴き交わしながら、夕暮れのなかを飛んできたのである。出水を出立してから、約九時間。ナベツルにとっては、時速約四〇キロの、ノンストップ飛行だったようだ。

その翌年五月。日本とソビエトの鳥学者が共同でナベツルの調査を行った。私もそれに参加させてもらい、この目でナベツルの故郷を見ることができたのである。

場所は、アムール川の支流であるビキン川の流域。広大な湿原地帯である。ハバロフスクまで新潟空港から約二時間、そこから大型のヘリコプターをチャーターして約一時間半で、目的地の近くにある唯一の村に到着する。

ビキン川は、アムール川の支流ではあるが、水量が豊富で、湿原や森林を縫うように、滔々と流れている。

ヘリコプターを下り、近くの村で食料や、腰まであるような長靴を調達した、我々日本側五人、ソ連側四人の調査隊は小さな舟に分乗してビキン川を遡ったのである。

水しぶきを浴びながら、五月といえども、まだ早春の趣をたつぷりと湛えた川辺の風景に目を奪われながらの舟旅である。

ナベツルが繁殖しているという湿原は、ズメーナヤ・マリーという。「ヘビの湿原」というのがその意味だという。

調査は幸運にめぐまれ、翌日にはキャンプ地から、湿原で食物をとるナベツルの姿を見ることができたのである。ナベ



ツルシギ(シギ科) 全長=32.5cm

鵪 鴝 鴝 鴝

鳥の名 シ
鳥の名 コウ
はいたか
きじ

四画

鵪 鵪 鵪 鵪

鳥の名 カイ
きくいたさ
ヒユウ
やとう
コ
ふなしうすら
いかるが
コツ



ウズラシギ(シギ科) 全長=21.5cm

鵪 鵪 鵪 鵪

鳥の名 カイ
シユウ
わし
ケン
ついはむ
フ
ふどり
フン
ふなしうすら

鵪

フン
鳥が集まるさま

鵪 鵪

鳥の名 ゲン
うすらのひな
ブン
うすらのひな

鳥

ハン
大きいはと

鵪 鵪 鵪 鵪

鳥の名 キユウ
鳥の名 カ
鳥の名 ショク
鳥の名 キユウ
怪鳥

鵪 鵪 鵪 鵪 鵪 鵪

鳥の名 シ
おすの鵪
水鳥 セキ
いかるが
コツ
毒鳥の名 タン
こいさき
ケン

鵪 鵪 鵪

鳥の名 シ
大雀
黒い鳥の名
ホウ
みていさき

鵪 鵪 鵪

鳥の名 シ
おすの鵪
水鳥 セキ
いかるが
コツ
毒鳥の名 タン
こいさき
ケン

公鳥

コウ
なかに似た小鳥

鵪 鵪

鳥の名 ショク
鳥の名 カ
鳥の名 キユウ
怪鳥

鵪 鵪

鳥の名 ショク
鳥の名 カ
鳥の名 キユウ
怪鳥



バン(クイナ科) 全長=32.5cm

鳥 鳥 鳥 鳥 鳥

ツルは「クルルルル」という、それこそツルの一声を残して飛びさつていった。その声は、出水で聞くのと同じはずなのに、湿原のなかで聞く声は、はるかかなたの森にこだまして響きわたったのである。

凍てつく湿原でナベヅルを観た

翌日、ナベヅルの巣が見つかった。卵は二つある。野鳥観察用に特別に作った、直方形の TENT を巣の近くに張ることにした。左右、奥行きがそれぞれ一メートル、高さが一・五メートルの狭い TENT である。この TENT は、相手からこちらの姿が見えないようにするので、プラインドと呼ばれている。身動きもままならない窮屈なものだ。

朝、プラインドに入ったら、もう夕方まで出られない。尿意を催しても、我慢するしかないのである。しかも、湿原に張られているので、下はグチャグチャだ。湿原の上部、約三〇センチは水になっているが、その下はまだ固く凍てついている。だとすると、水の温度は約〇度 C ということになる。

しかも、湿原は人の重みで静かに沈んでいく。すのこを敷いているのだが、それが斜めに沈む。ひどい態勢でじっと観察するのだ。

ナベヅルなどのツル類は、雌雄が交代で卵を温める。そして、巣からあまり遠くないところで餌を探すのである。湿原にはナベヅルの餌になるようなものはあまり見つからない。どうもツルコケモモ

丹鳥

カン
人面の鳥

鳩 鳩 鳩

チン 毒鳥の名
チュウ むささび
コウ とびくだる

鳩 鴛 鴛

ホウ のがん
テイ 鳥の名
ケイ 鳥の名

春の水辺の鳥



メダイチドリ(チドリ科)
全長=19.5cm

片鳥

ショウ
餌をさがす鳥

鴛 鳩 鴛

カン かり
キン 小鳥の名
キユウ おんどり

鳩 鳩 鴛

ア からす
コツ いかるが

鳩 鳩 鴛 鴛 鴛 鳩 鳩 鳩

ガ 義未詳
キョ 義未詳
シ みみずく
ア からす
ホ 怪鳥
キユウ めすの鳥
ジャク すずめ
キョウ ふくろう
ホウ おおとり
カン 人面の鳥
チン 毒鳥の名

毛鳥

ボウ
鳥のうぶ毛

鳥

鳥

鳥

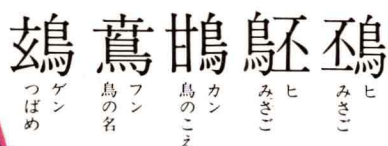
鳥

鳥



鶴(『三才図会』より)

の実や小魚などを食べているようだが、そんなには多くない。
しかし、雛が孵(ひな)るころには、カエルのオタマジャクシが始めるのだらう。
私達が観察を続けている間に、近くにクマが出没した。またハシブトガラスが、親が巣を離れたすきをうかがっている。卵を盗もうというのだ。冷たい雨が降り、夜は氷が張るほど寒い。五月の末とは思えないほどだ。
厳しい環境の中で、親鳥は懸命に抱卵を続け、ついに雛が孵(ひな)った。
このナベツル一家が、日本にやってくる確立は約九五パーセントほど。なにしろこれまでに知られているナベツルの約九五パーセントが日本で冬をこすのだから。
ズメーナヤ・マーリのナベツル一家に、日本での再会を願いながら、別れを告げたのである。



ハヤブサ (ハヤブサ科)
全長=雄 38 cm, 雌 51 cm

鵠 鵠

正鳥

鳥代

トク
あひる

キヨ 鳥の名

セ
イ
た
か

鴝 鶯 鵲 鴛 鴦 鴛 鴦 鴛 鴦 鴛 鴦

鳥の名

鳥の名

鳥の名

雁の
一。雁の
一

サク
あひる

鴿鳥

レイ
せきれい

鳥の夕

必鳴

めじろ

くろか

駝 鴉

タ
だちよう

ヒユウ
きくいだき

鳥の名

工鳥

みそさざい

鴿 石鴿

ブン
かすいどり
セキ
せきれい

鵑 巧鵑

う　ジ　　みそさざい　コウ

鴝 鴝 𪗇 鵒 鵒 鵒

チ
きじ

鳥のイ
ツ名

鳥の
名

へん
わかた

リ
ユ
ウ
か
わ
せ

あひる

鵠 鵠 鵠 鵠

ビ
たかべ
ハツ
大きい鳥
ハツ
大きい鳥

木し
鳥

鳥の毛色

鴛 鴦 鳬 鳴 鴈 鸕 鷀

チヨウ	カ	カ	エン	エン
ウ	の	の	の	の
あ	一	一	種	種
げ	種	種	人	鳳
は			名	凰
				の
				一
				種
				エン
				お
				し
				ど
				り

ノビタキの雄(ヒタキ科) 全長=13cm

鴛エン鴦おしどり



鴉キョウ
みそぎい

駒ク
川駒

鳩ク
はつちよう

鴛シ
にわとり

鴛シ
とび

鳩フ
鳥の名

鴛シ
みさこ

鴛タン
やまどり

鳩シ
とび

鴉シ
鳥のこえ

鴉シ
鳥のこえ

鴉シ
はどり

鴉シ
はどり

鴉

ハク
鳥の名



アオバズク(フクロウ科)
全長=27~30.5 cm

鴉
おうむ

鴉
ホウ
のがん

鴉

ホウ
のがん

鴉コ
あおさぎ

鴉コ
あおさぎ



ホオジロの雄(ホオジロ科)
全長=16.5 cm

鴉トウ
かいつぷり

鴉イツ
鳥が速く飛ぶ

鴉

セキ
ふなしうずら

鴉オウ
かも

鴉オウ
かも

鴉オウ
おしどり

鴉ジョウ
はやぶさが飛ぶ

鴉イツ
鳥が速く飛ぶ



ホシガラス(カラス科) 全長=34.5 cm

鴉ケイ
水鳥の名

鴉ユウ
むささび

鴉ス
ひな

鴉ガン
かり

鴉

鴉
オウ
かも

鴉シ
しぎ

鴉ス
ひな

鴉ス
ひな

鴉ス
ひな